

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会は7月27、28日に、防災への取り組みにおいて先進的自治体である、茨城県神栖市に赴き、視察研修を行いました。
調査にあたったのは、大木義正委員長、佐藤幸一副委員長、藤井精七委員、鈴木一夫委員の4名です。



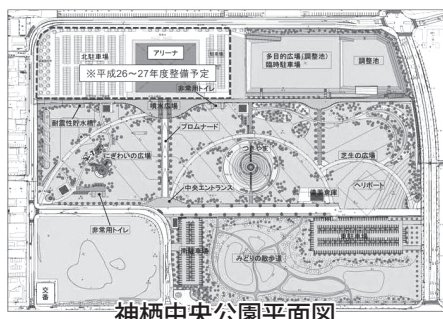
災害時には防災拠点として機能する総合公園

神栖市の中心市街地に位置する神栖中央公園は、市民の日常的な憩いと健康づくりの場であるとともに、地域防災拠点として災害時の救援・救護活動の前線基地、復旧復興のための資材や生活物資輸送の中継基地となる防災機能を備えた総合公園です。

災害時はマンホールのふたを外すとトイレに

19haという広大な敷地には、調整池を兼ねた多目的の広場、芝生広場、大型複合遊具等が設置され、毛布や食料品、粉ミルク、飲料水等が蓄えられた2階建て975㎡の備蓄倉庫、100㎡の耐震性貯水槽、80

㎡の耐震性貯留槽、マンホールのふたを外すとトイレになる56基の防災トイレ、かまど機能付きベンチ、自家用発電機、大型機対応のヘリポート等が整備されていて、6万人の避難者の収容が可能です。



東日本大震災の教訓から得た津波への備え

津波対策として、2千人が避難できる、標高15メートルのつきやま「ふれあいの丘」が造成された他、高台の少ない市内で、市民が駆け上がった避難できるよう、3階建

て以上の建物の所有者と市の間で緊急避難使用協定が結ばれました。



この他、各学校には、屋上に駆け上がるための外階段と、屋上の手すりも設置されました。

今後、災害時には避難所としても機能するアリーナの建設も予定されています。

当町でも防災への取り組みはもろろんのこと、未来を見据えた町づくりを進めていくべきと、実感しました。

姉妹都市・三鷹市議会正副議長来町！

7月16日に姉妹都市として交流がある、三鷹市議会の一行が矢吹町議会を訪れました。今回の訪問は、改選により新たに選ばれた、正副議長の就任のあいさつと3名の新人議員の研修を目的としたものです。

訪れたのは、後藤貴光議長、岩見大三副議長、大倉あき子議員、小俣美恵子議員、西尾勝彦議員と2名の随行職員です。

当議会からは諸根重男議長、鈴木一夫副議長、薄葉好弘総務常任委員長、大木義正文教厚生常任委員長、鈴木隆司産業建設常任委員長、熊田宏議会運営委員長、安井敬博議会広報編集委員長と野崎町長ら町三役が出迎え、両議会等に関する意見交換と、大池公園茶室、未来くるやぶき屋内外運動場などの公共施設、姉妹都市締結のきっかけとなった大木代吉本店や特産の旬太郎トマトのハウスなど、町内産業を担う事業所等の視察を行いました。

